

# 道場だよ！ 未来へむかって

発行日 平成27年5月15日  
発行号 H27 5月号  
発行者 新潟県立小出特別支援学校  
川西分校 進路指導部



春ですね～。

暖かくなり、周囲の田んぼにも水が入り、田植えの準備が進んでいますね。

学校では様々な学習のオリエンテーションや健康診断等も終わり、本格的な授業となっています。進路に関わる学習も今週からふれあいジョブがスタートしました。各学年ごとの立場を意識しながら学習を進めていきましょう。

## 高等部での学習（職場実習）について

前号(4月号)で、先輩達の高等部卒業後の進路や進路実現に向けた努力について触れました。では、在学中はどんな取組をしていくのでしょうか。

授業の中で様々な学習をしています。それぞれに到達したい目標、支援があり、達成したい課題等があります。それらは一人一人の「個別の指導計画」として、保護者の方にも確認をしていただき、それを基に本人が身に付けるべきことを意識して学習しています。



しかし、それだけでは卒業後の地域生活（職業生活・家庭生活・社会生活）をしていくには不十分で、授業（学校）で学んだことを「活用する瞬間」に生かしていく学習が必要になります。特に職業生活における分野であれば、職場で働く時間、活動する時間にその瞬間があります。当校では、主にふれあいジョブや現場実習で実際に取り組んでいます。

例えば・・・

- 予定された職場実習を確実（最後まで）に行うことができること。
  - ・ 毎日元気に現場に行ける。
  - ・ 時間通りに活動（出勤・休憩・終了）ができる。
  - ・ 相手に伝える方法（自分なりの表現）で、自分から挨拶ができる。
  - ・ 提示された仕事・活動に取り組むことができる。
  - ・ しばらくの間支援者がいなくても、一人で仕事・活動ができる。待つことができる。
  - ・ （実態に合わせて）求められたことを最後までできる。
  - ・ 報告や質問が自分からできる。
  - ・ 決められた通勤方法で安全に通勤できる。

- 学校で学んでいるビジネスマナーを現場で実践できること。
  - ・ 挨拶のタイミングを判断し、逃さず自分からできる。
  - ・ 面接をしている間、姿勢を正してられる。
  - ・ 和室、洋室にかかわらず、マナーとして正しい座り方を続けられる。
  - ・ 話されたことを理解し、返事ができる。
  - ・ 自分で判断して、メモがとれる。

等々

他にも学校で勉強していることはたくさんありますが、それらも同様で、できるだけ自分ででき

ることが望めます。教師や保護者がいなくても、自分でできるようにチャレンジする、大事な実習なのです。

もしかすると「障がいがあるのだから、そこまでしなくても」と思われるかもしれませんが。

しかし、文面を否定文にして、読み返して見てください。その状態で「福祉事業所に行ったら・・・」、「私の勤めている会社に働きに来たら・・・」という視点で考えてみると、受け入れる側も受け入れにくい状態になったり、本人自身卒業後の現場生活は定着しにくくなったりして、かなり不安定なものになるのではないのでしょうか。



実際、特別支援学校の卒業生の中には上記の内容ができずに、不安定な生活（職場が変わってしまう・生活サイクルが安定せず出勤できない）を送っている卒業生もいます。特に1組(旧2組)の卒業生よりも、一般就労した卒業生に見られる様子でもあります。

生徒たちは、見知らぬ環境で仕事や活動をしています。1回の職場実習では、できない内容も多いです。しかし実習を行い、振り返り、課題を確認する。そして次の実習ではできる場面が増えるように学校・家庭で取り組んでいく。その様な活動を年4回(1年生は2回)繰り返します。しっかりと経験と学習を積み上げることで、3年生になった時の進路選択の基になるのです。

1回1回が大切な経験になります。無駄な実習はありません。

「学校・家庭で取り組んでいく」と記載したのは、学校だけでは学びの場として不十分だからです。健康の管理や睡眠時間の確保、衣類の準備、出勤前の身だしなみの確認、出勤時間の確保、本人への励まし、出発前の準備確認など、家庭でしかできないことがたくさんあります。

また卒業後は、生活習慣や社会的マナーなどは、家庭が主体で教えることとなります。ご家族の生活も含めて卒業後の生活を考えていただくことが大切です。

これから始まるふれあいジョブ、来月実施する現場実習・校内実習を

## 「子どもの成長・チャレンジの場」

### 「子どもの進路適性を考える場」

### 「家族の将来の生活を考える場」

として、学校も家庭も本人を励まし、指導し、支える、機会にしていだければと思います。

実習は、事業所の皆様からのご厚意で、生徒の教育活動にご協力いただいています。せっかくの機会ですので、ぜひお子さんが働く(活動する)様子、事業所の様子を見に行ってください。その際、事業所の皆様にも「子供がお世話になっています」と感謝の気持ちを伝えると共に、働く様子を聞いていただけたらと思います。

(事業所へ伺うときは学校へご一報ください。学校で実習後のお礼を準備しますので、お手持ちは不要です。)

次のページに、ふれあいジョブや現場実習に取り組む上で、ご家庭に協力していただきたいことを記載しました。よろしくお願い致します。

## 職場実習に伴う家庭への協力をお願い

\* 知らない人たちの中に飛び込む「ふれあいジョブ」「現場実習」。緊張の連続です。お子さんを囲む周りの大人たち（学校や家庭）も事前にしっかりと準備し、新たな一歩を踏み出す貴重な経験になるように支援していきましょう。

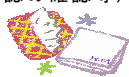
### (1) ふれあいジョブ・現場実習前 【生徒が意欲的に取り組めるように】

- 心構え（衣服等の身だしなみや挨拶・返事等の徹底を再確認。）
- 必要な持ち物等の準備（覚書・日誌に記載してあります。）
- 勤務時間等の時間に対する自覚（遅刻厳禁の気持ち。規則正しい生活リズム、見通しをもたせる。）
- ふれあいジョブ先・実習先までの通勤練習（一人でも安全に通勤。バス時刻等の確認。）  
※通勤時間帯の居場所確認のためにも、覚書の通勤方法で実施して下さい。
- ふれあいジョブ先・実習先への挨拶（通勤経路の確認も含めて、期間中に一度は実習先に挨拶や見学をお願いします。）



### (2) ふれあいジョブ・現場実習中 【家庭での憩い、体力の回復、明日への準備を】

- ふれあいジョブ・実習状況の把握（生徒の様子、会話、日誌の確認等）
- 清潔な身だしなみ、職場にふさわしい服装（入浴、洗髪、整髪、爪切り、洗顔、歯磨き、きれいな衣類、ハンカチ、タオル、ティッシュ）
- 規則正しい生活リズム（早寝、早起き、朝御飯、時間や気持ちに余裕のある出勤）
- 明日への意欲付け（明るい会話、たっぷり睡眠、心と身体のリフレッシュ）



○ふれあいジョブ日誌・実習日誌の記入（保護者の欄に家での様子などの記入をお願いします。お世話になっているという感謝の気持ちが感じられると、ジョブ先・実習先でも気持ちよく受け入れていただけると思います。）

○欠勤、遅刻、帰宅が遅い場合などは、迷わず学校（担任・進路担当）への連絡（様子がおかしい？と感じたら、すぐに連絡、相談を！）

### (3) ふれあいジョブ・現場実習後 【実習のがんばりをほめ、反省をもとに具体的な目標をもたせた生活へ】

- 振り返り-目標作り-家庭での取組（次の実習まで、卒業までを目安に）
- 実習後は、アンケートにご協力をお願いします。

「ふれあいジョブ」のみならず、「現場実習」の取組も同様です。ご支援のほど重ねてお願い致します。

## 新潟県立小出特別支援学校 川西分校 進路教室のご案内

### 5月の進路教室

期 日	予定するテーマ内容	対象等
5月21日 (木)	・卒業後の進路先と生活 ~ 卒業生の例 ~ ・今からの準備と福祉の利用(手帳と福祉サービス)	全学年

<時間・場所> 13:30 ~ 川西分校第2作業室

今回は、卒業した先輩達の進路先や生活の様子を例に、社会生活で卒業生が求められている内容について考えます。また卒業後の進路を考える上で、「大切なものは何か」、「在学中からどんな準備をしていたのか」など皆さんと一緒に考えていければと思います。また近年、障がいがある方が持つ手帳や利用する福祉サービスについての疑問も多いのが現状です。手帳の取得に向けてや福祉サービスについてもご紹介できればと思っています。ご多用の中かと思いますが、多くの皆様からの参加をお待ちしています。



### 次回(6月)の進路教室の予定

- <日時> 6月25日(木) 詳しく日程は後日
- <内容> ・現場実習の取組について 等
- <場所> 第2作業室
- <テーマ> ・現場実習の取組について  
・保護者として取り組んで欲しいこと



不明点があれば、いつでもお問い合わせください。

新潟県立小出特別支援学校川西分校  
TEL 025-768-3325  
FAX 025-768-3371  
担当:進路指導部 細井哲明 佐藤正高

